

環境経営レポート

株式会社 ティー・エヌ・シー

2024 年度

(対象期間：2024年9月1日～2025年3月31日)

発行日： 2025年4月4日
改訂日： 2025年8月1日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	1
経営理念	1
環境経営方針	2
組織の概要	3
対象範囲（認証・登録範囲）	3
事業の紹介	3
実施体制（環境経営組織及び役割・責任・権限）	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	8
環境経営計画の取組み結果と評価、次年度の計画	9
各工場の工程概要	16
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	18
緊急事態対応の試行・訓練	18
代表者による全体の評価と見直し・指示	19
これまでの環境活動の紹介	20

□ごあいさつ

東洋紡グループの一員として、省エネルギー、使用資源の削減と再利用に努めるとともに、社会や地域の発展に貢献できる活動に取り組めます。

地球温暖化対策推進法をはじめとした環境法規制を遵守し、改善活動を通じて環境保護や生物多様性の保全に取り組めます。

資源の有効活用を図り、廃棄物の削減、リサイクルに努めます。

環境負荷物質の管理を強化し、人と環境にやさしい物づくり、

経 営 理 念

「順理則裕（りにしたがえば、すなわちゆたかなり）」

東洋紡グループの一員として、"順理則裕"を企業理念とし、社会的責任(CSR)、機密保持、法令及び社会のルール順守を徹底致します。
又、職場の安全衛生を保ち、環境負荷低減に努めてまいります。

環境経営方針

(株) ティー・エヌ・シーは、「塗料」「コーティング材」「接着剤」「ペースト」等の「混合・分散」加工、「重合・変性・溶解」加工の受託製造メーカーです。

東洋紡グループの一員として、省エネルギー、使用資源の削減と再利用に努めるとともに、環境経営の継続的改善を行い、環境関連法規を遵守し社会や地域の発展に貢献できる活動に取り組めます。

環境経営への行動指針

- 1 . 地球温暖化対策推進法をはじめとした「法規制を遵守」し、改善活動を通じて環境保護・保全に取り組めます。
- 2 . 資源の有効利用を図り、「廃棄物の削減」、「リサイクル・リユース」に努めるとともに、グリーン購入を推進します。
- 3 . 「身の周りの環境リスク」、「化学物質の危険性と正しい取り扱い方法」を理解し、環境負荷物質の管理を強化します。
- 4 . 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日： 2024年4月1日

改定日： 2025年4月1日

代表取締役社長 **夏原 豊和**

組 織 の 概 要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 ティー・エヌ・シー
代表取締役社長 夏原 豊和

(2) 所在地

本社（登記上） 大阪市北区梅田一丁目13番1号
塩浜工場 三重県四日市市宝町1番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	工場長	荒永 知幸	TEL : 080-5195-9227
担当者	製造部	蜂谷 俊仁	TEL : 080-4815-5873
		大川 孝明	TEL : 080-4815-5833

(4) 事業内容

インキ類 並び 合成樹脂の製造及び販売

(5) 事業の規模

売上高 533,566 千円

		塩浜工場				合計
従業員	名	32 名				32名
延べ床面積	m ²	2401 m ²				2,401m ²

(6) 事業年度

4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

対象範囲（認証・登録範囲）

登録事業者名： 株式会社 ティー・エヌ・シー
事業活動： インキ類 並び 合成樹脂の製造及び販売
対象事業所： 塩浜工場
対象範囲： 全組織、全活動

事業の紹介

□主な事業の紹介

株式会社ティー・エヌ・シーは、混合・分散・重合の受託加工専門メーカーです。
小ロットの試作品から、既製品の製造受託まで、効率化を徹底サポートいたします。
インク、コーティング剤、接着剤の他、UV硬化樹脂の混合・分散、レジストインクの混合・分散、
アクリルウレタンの重合もお任せください。

□主要事業内容

1. 重合、変性、溶解加工
 - ・PAI（ポリアミドイミド）重合
 - ・バイロン®（東洋紡エムシー）固形樹脂の溶解

2. 混合、分散加工
 - ・電子材料インキ
 - ・色材用インキ(永瀬スクリーン印刷研究所)
3. バイロン[®]樹脂乾燥
4. 外部受託加工
5. 危険物保管・出荷業務

□保有設備

◆生産設備・保有台数

1. 混合機
 - ・ダブルプラネタリーミキサー 5台
 - ・ディゾルバー 8台
 - ・偏芯二軸ミキサー 1台
 - ・ドラム攪拌機 1台
2. 分散
 - ・3本ロールミル 8台
 - ・ビーズミル（小・中型） 2台
3. 溶解缶（温水加熱MAX85℃）
 - ・80L溶解缶 1台
 - ・200L溶解缶 1台
 - ・600L溶解缶 1台
4. 重合缶（熱媒温度MAX200℃）
 - ・400L反応缶 1台
 - ・2400L反応缶 1台
5. 乾燥機
 - ・除湿式熱風乾燥機 2台
6. ワニスの固形分離・脱水・乾燥
 - ・棚式乾燥機 4台
 - ・遠心脱水機 1機

□評価項目・装置

◆ワニス（製品）評価

1. 固形分測定
 - ・熱風乾燥機 4台
 - ・真空乾燥機 2台
2. 溶液粘度
 - ・B L型、B H型 各1台
 - ・E型粘度計 3台
3. 水分率
 - ・カールフィッシャー 2台
4. 分散性評価
 - ・グラインドゲージ 2台
5. ポリマー物性
 - ・対数粘度（ウペローデ粘度管）
 - ・酸価滴定

◆塗膜評価

1. 光硬化性評価	
・UV照射機	1台
2. 接着強度	
・テンシロン	1台
・熱ロールラミ機	1台
・熱プレス機	1台
3. ハンダ耐熱性評価	
・ハンダ槽	1台
4. 密着試験 クロスカット	
5. 鉛筆硬度評価	
6. 電気的特性	
・抵抗測定器	1台

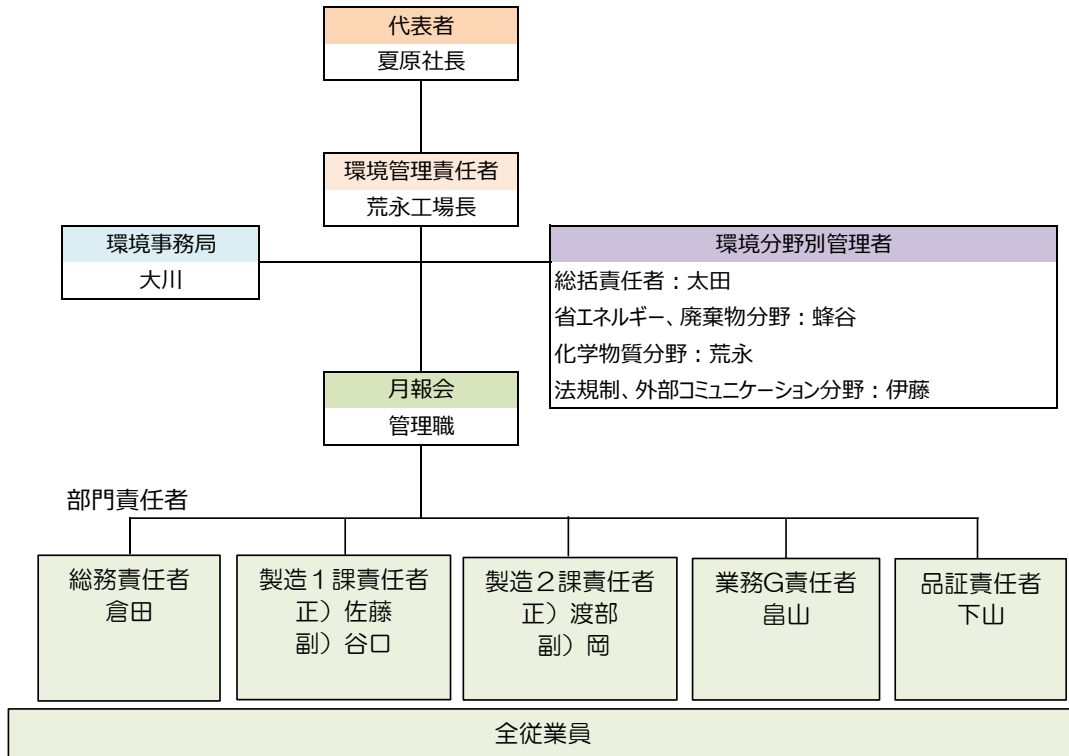
□主な資格リスト(2024年4月1日現在)

・有機溶剤作業主任者	23名
・特定化学物質等作業主任者	23名
・四アルキル鉛等作業主任者	17名
・毒劇物取扱責任者	3名
・危険物取扱者<乙1類>	3名
・危険物取扱者<乙2類>	4名
・危険物取扱者<乙3類>	3名
・危険物取扱者<乙4類>	24名
・危険物取扱者<乙5類>	6名
・危険物取扱者<乙6類>	3名
・フォークリフト運転	22名
・クレーン取扱業務等特別教育	8名
・玉掛技能講習修了者	9名
・ガス溶接技能講習	3名
・特定粉じん作業	3名
・酸素欠乏危険作業	2名
・普通第一種圧力容器取扱作業主任者	3名
・電気工事士<第2種>	2名
・防火管理者	2名
・特別管理産業廃棄物管理責任者	2名
・他	

実施体制

(環境経営組織及び役割・責任・権限)

更新日： 2025年4月1日



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な資源（人、モノ、資金、情報）を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価及び見直し、指示 ・環境経営レポートの承認 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築・実施・管理 ・環境関連法規等のとりまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA 2 1 推進の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組み自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画案の作成 ・環境経営活動実績の集計 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと事務局への送付）

環境分野別責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野における環境経営活動計画の目標達成手段の作成 ・各分野における環境経営活動計画の推進と取り組み ・各分野における項目の手順書作成及び運用管理 ・各分野の特定された緊急事態の対応のための手順書作成 ・各分野の問題点の発見、是正、予防措置の実施 ・各分野の環境負荷自己チェック及び環境への取り組み自己チェックの実施 ・各分野における法規・知識等の教育を計画し実施する ・法規制責任者は環境関係を含むとりまとめ表の作成と遵守評価の実施 ・外部コミュニケーション責任者は外部コミュニケーションの窓口
月報会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の審議 ・活動進捗の確認・評価
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に關係する環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び達成状況の報告 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応の為の手順書作成 ・試行・訓練の実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	288,474	359,160	333,301
Scope1（化石燃料）	kg-CO ₂	1,090	1,329	1,160
Scope2（電力）	kg-CO ₂	287,384	357,831	332,141
廃棄物排出量				
産業廃棄物排出量	kg	90,400	73,042	98,617
水使用量(上水、地下水)	m ³	13,357	8,166	8,138
※電力の二酸化炭素排出係数（調整後）		0.459	0.459	0.459
kg-CO ₂ /kWh		中部電力ミライズ （2022年度）	中部電力ミライズ （2022年度）	中部電力ミライズ （2022年度）

環境経営目標及びその実績

※「評価」について 数値目標：○ 達成、△ 未達成(外部要因)、× 未達成

年 度 項 目		2023年度	2024年度		評価	2025年度	2026年度	
		上段：通期 中段：2023/9～2024/3	上段：通期 中段：2024/9～2025/3			上段：通期 中段：――	上段：通期 中段：――	
		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)	
電力による二酸化炭素削減	kWh	779,588	771,792	723,618		763,996	756,200	
	活動期間	431,007	426,697	402,919	○			
	基準年度比		99%	93%		98%	97%	
	kWh/千円	1.461	1.446	1.130	○	1.432	1.417	
	kg-CO2	357,831	354,253	332,141		350,674	347,096	
	活動期間	197,832	195,854	184,940	○			
	基準年度比		99%	93%		98%	97%	
原単位	kg-CO2/千円	0.671	0.664	0.519	○	0.657	0.651	
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	1,329	1,316	1,160		1,303	1,289	
	活動期間	805	797	729	○			
	基準年度比		99%	91%		98%	97%	
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	359,160	355,569	333,301		351,977	348,385
廃プラの削減	kg	7,120	7,049	6,524		6,978	6,906	
	活動期間	3,720	3,683	3,711	△*1			
	基準年度比		99%	100%		98%	97%	
廃油の削減	kg	60,547	59,942	87,463		59,336	58,731	
	活動期間	34,851	34,502	37,869	△*2			
	基準年度比		99%	109%		98%	97%	
廃ウエスの削減	kg	4,005	3,965	3,540		3,925	3,885	
	活動期間	2,330	2,307	2,200	○			
	基準年度比		99%	94%		98%	97%	
ガラスの削減	kg	410	406	400		402	398	
	活動期間	280	277	170	○			
	基準年度比		99%	61%		98%	97%	
再資源化率の向上	%	12.01	12.13	95.70		12.25	12.37	
	活動期間平均	14.28	14.42	94.93	○			
	基準年度比		101%	665%		102%	103%	
水道水の削減	m³	463	458	435		454	449	
	活動期間	318	315	197	○			
	基準年度比		99%	62%		98%	97%	
グリーン購入比率の向上	%	15.86	16.02	15.35		16.17	16.33	
	活動期間平均	14.04	14.18	14.83	○			
	基準年度比		101%	106%		102%	103%	

※備考： 1. 化学物質については、受託業務につき「適正管理」項目とした。

取組み内容については「環境経営計画の取組みと評価、次年度の計画」の「化学物質の適正管理」に示した。

2. 算出二酸化炭素排出係数：0.459 kg-CO2/kWh、中部ミライズ2022年度数値

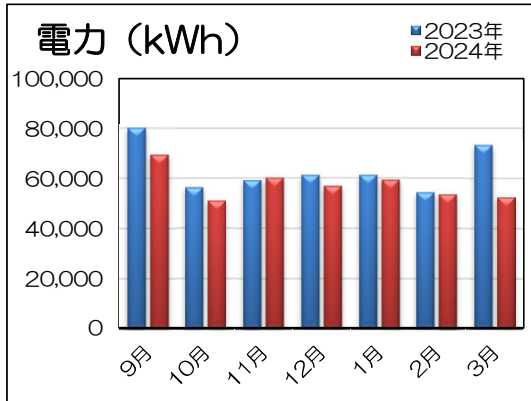
環境経営計画の取組み結果と評価、次年度の計画

※「達成状況」について

数値目標：○達成 △未達成(外部要因) ×未達成

活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	<p>評価期間での比較すると総量では7%の削減となった。原単位では約24%の削減となった。空調温度の適正化に取り組み定着できた。生産工程においては停止中の設備の電源を切る、業務効率の改善により時間短縮等に取り組んだ。次年度も継続し業務効率のアップ等の改善活動を推進する。</p> <p>前年度同期と比較し、8%の削減となった。電力量に関しては生産量に依存するため一概には言えないが、空調温度の適正化による取り組みで過度の冷暖房をしないようになり電力消費アップの抑制となった。</p> <p>2T重合設備、インキ工場においてLED照明への切り替えを計画した。</p>
原単位目標	○	
・空調機器の適正温度管理による電力量の削減	○	
・連続生産による生産設備のロス低減	△	
・生産設備のアイドル時間の短縮	△	
・OA機器の未使用時の電源切による電力量削減	○	
・掲示物等での節電意識付けによる電力量削減	○	
・窓への遮光シート/断熱材設置による室温上昇/下降抑制	△	
・乾燥機での待機時間の削減	○	
・工程時間(サイクルタイム)の短縮	○	
・LED照明への切り替えによる電力消費の削減	○	



取組紹介欄

①節電ラベル掲示による節電意識付け[全部署]



②品証乾燥機の待機時間の削減(3hr以上の待機時間の削減) [品証]

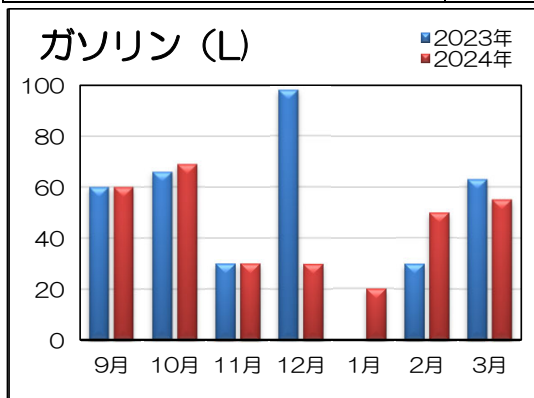
③エアコン消費電力の削減：窓へ遮光シート貼付、
室外機への日除け設置[業務G]

④エアコンのフィルター清掃：1回/3M[総務]

[kWh]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	55,531	48,356	70,942	91,160	82,592	80,222	56,067	59,181	61,198	61,198	54,332	73,360
2024年	52,425	56,346	67,410	79,712	64,806	69,396	50,972	60,226	56,890	59,310	53,514	52,611

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	近距離移動(構内移動)での社用車の使用を控え9%の削減となった。今後も継続しモニターする。
・公共交通機関の使用によるCO2削減	○	
・近距離での使用禁止によるCO2削減	○	
・効率的なルートでの走行によるCO2削減	○	



取組紹介欄

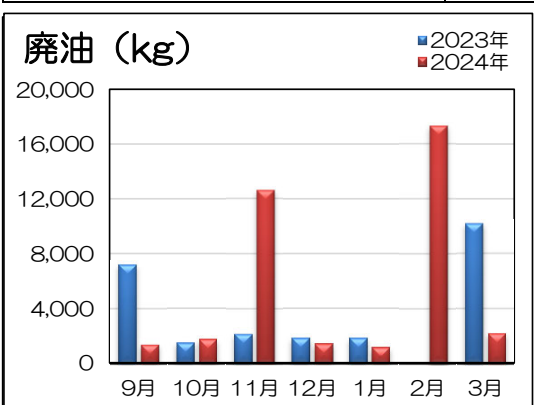
- ①社用車の使用回数の削減：構内での移動廃止[総務]
- ②最短距離の走行励行[全体]



[L]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	30	69	30	30	67	60	66	30	98	0	30	63
2024年	30	30	30	66	30	60	69	30	30	20	50	55

廃油の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	△*2	生産ロス(作業ミス)を削減し、廃油排出量を削減させる取り組みを開始した。但し生産状況によりNMP水溶液を排出すると廃棄量が一時的に増えてしまう。これに関しては現状再生が出来ないが、有価引き取り(リサイクル)可能となる廃溶剤は不純物が混入しないよう管理を徹底しリサイクル化を推進する。
・生産ロスの削減による廃棄量の削減	○	
・分別の徹底	△	
・有価/産廃回収時の徹底	△	
・有価引取の拡大	○	



取組紹介欄

- ①分別の徹底：溶剤付着有無の分別の徹底[全部署]
- ②NMP水溶液の廃棄まとめて処理
- ③シクロヘキサノン有価引き取りへ変更
- ④洗浄廃液(NMP)の有価引き取り化

*2) 2023年度より生産量増加にて廃棄処理量も増えた

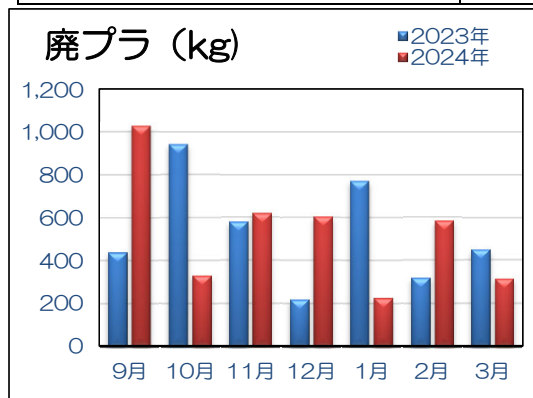
11月：NMP水溶液11,140kg処理

2月：NMP水溶液13,380kg処理

[kg]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	2,019	1,755	11,200	10,702	20	7,200	1,502	2,175	1,824	1,824	0	10,150
2024年	16,629	7,740	10,851	1,681	12,693	1,402	1,751	12,600	1,423	1,174	17,300	2,219

廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	△*1	生産ロス(作業ミス)を削減するとともに全社的に分別を徹底し廃プラ排出量を削減させる取り組みを開始した。まだ効果は現れていないが引き続き廃プラ削減に取り組む。
・生産ロスの削減による廃棄量の削減	○	
・分別の徹底	○	



取組紹介欄

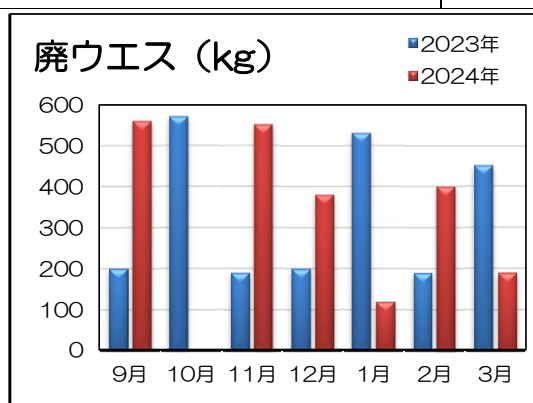
- ①油付着廃プラと付着無しとの分別が部署により徹底されておらず、全社的に徹底する。
- ②一般廃棄物を分別

*1) 2023年度より生産量増加にて廃棄処理量も増えた
9月：油付廃油(廃フレコン他)655kg処理

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	590	760	660	800	590	440	940	580	220	770	320	450
2024年	500	720	562	695	336	1,029	332	619	605	227	584	315

[kg]

廃ウエスの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	生産ロス(作業ミス)を削減し、ウエス使用を節約する取り組みを開始した。廃ウエスへの溶剤投入を行わない等実施する。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・節約を心掛ける	○	



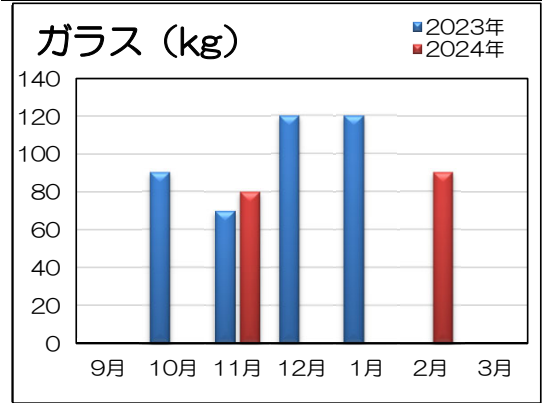
取組紹介欄

- ①節約の意識づけ
- ②廃ウエスドラムへの廃溶剤投入の禁止

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	380	350	190	500	255	200	570	190	200	530	190	450
2024年	360	110	450	150	270	560	0	550	380	120	400	190

[kg]

ガラスの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	再生可能なガラスについては再生化し、ガラスの廃棄量を削減させる取り組みを開始した。但し生産に応じたサンプル数が多くなると増える傾向にある。まだリユースには至っていない。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・再使用の推進		



取組紹介欄

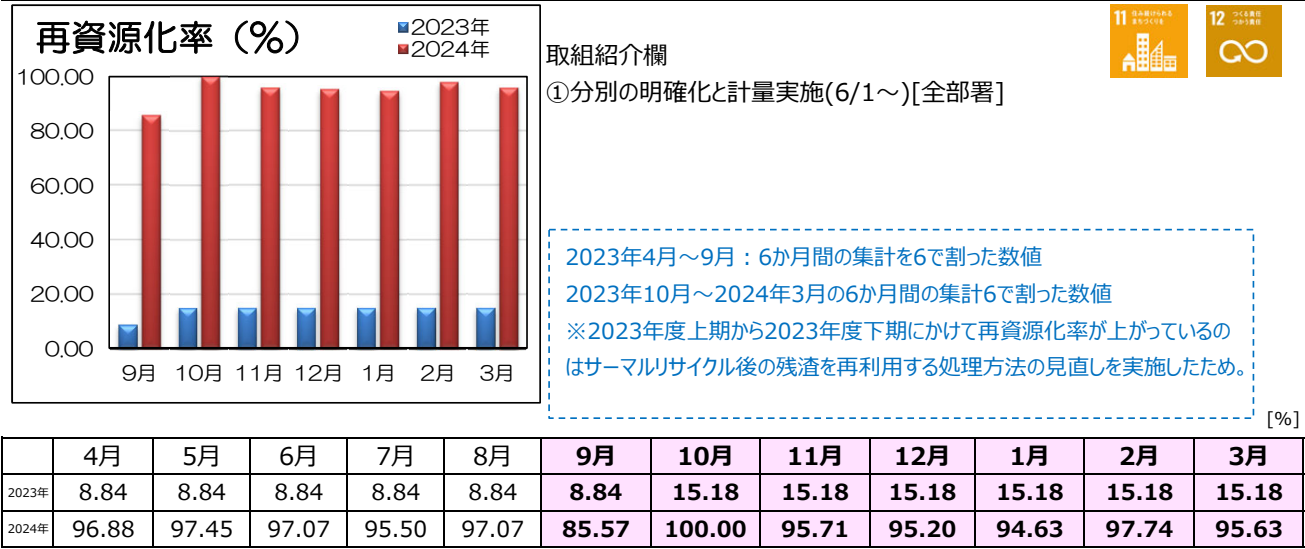
①洗浄による再使用(可能なもの)



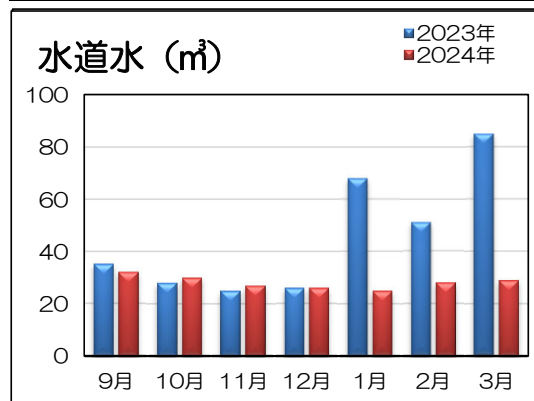
[kg]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	0	70	0	60	0	0	90	70	120	120	0	0
2024年	80	0	60	0	90	0	0	80	0	0	90	0

再資源化率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	分別の明確化により焼却廃棄へ振り分けられていた紙を再生紙への振り分けを徹底する。ドラム缶については再利用可能な状態で廃棄(売却)する。
・電子ファイル化による紙の削減	○	
・焼却と再生可能との分別の明確化	○	
・分別の徹底	○	



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	2T移送ポンプの冷却水を上水から工水(地下水)へ変更が大きく寄与、また節電表示による節水意識の向上を図った。
・冷却水を井戸水への切り替えによる使用量削減	○	
・掲示物等での節水意識付けにより使用量削減	○	



取組紹介欄

① 2T製造所：ギヤポンプの冷却/温水を上水から工水へ変更(2023/7/11)



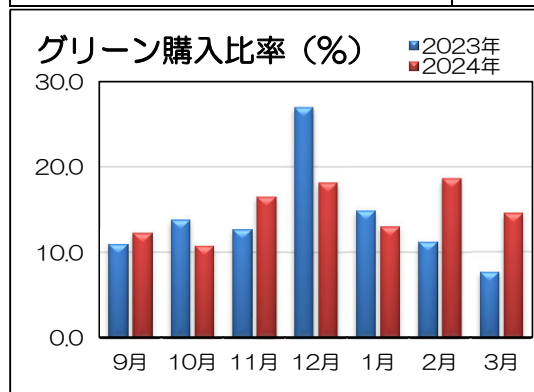
② 節水ラベル掲示による節水意識付け(2024/9/1)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	28	26	28	31	32	35	28	25	26	68	51	85
2024年	73	48	49	39	29	32	30	27	26	25	28	29

[m³]

グリーン購入比率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
実施目標	○	環境に配慮した資材の購入、グリーン調達の実施
・グリーン購入品の推進	○	
・紙類をグリーン購入品にしていく。	○	



取組紹介欄

① グリーン調達の実施、品目数アップ[総務]

② 紙類をグリーン購入品にしていく。

③ グリーン購入品の見える化、品目アップ



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	22.5	23.5	14.3	14.3	11.3	11.0	13.8	12.7	27.0	14.9	11.3	7.7
2024年	16.9	19.5	14.0	16.0	14.0	12.2	10.8	16.5	18.2	13.0	18.6	14.5

[%]

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
実施目標	○	PRTR管理による使用量の把握と在庫管理を継続実施
・リスクアセスメントの実施	○	
・有害性物質の表示・保管・管理の徹底	○	
・従業員教育	○	
・PRTR物質使用量の把握	○	
・ロス低減による環境への化学物質排出量の削減	○	

取組紹介欄

- ①PRTR物質使用量の把握
- ②化学物質のリスクアセスメント実施
- ③化学物質についての社員教育実施
- ④有害性物質の表示・保管・管理の徹底
- ⑤ロス低減による環境への化学物質排出量の削減



環境に配慮した製品・サービスへの取り組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・エコマーク資材の採用、グリーン調達への推進	○	
・フロン使用機器の管理(フロン排出抑制法)	○	
・工場周辺の美化	○	

取組紹介欄

- ①エコマーク資材の採用[業務G]
- ②フロン使用機器の管理
- ③工場周辺の美化



PPバンド



フロン点検



各工場の工程概要

＜製造部・インキ工場＞ 工程概要



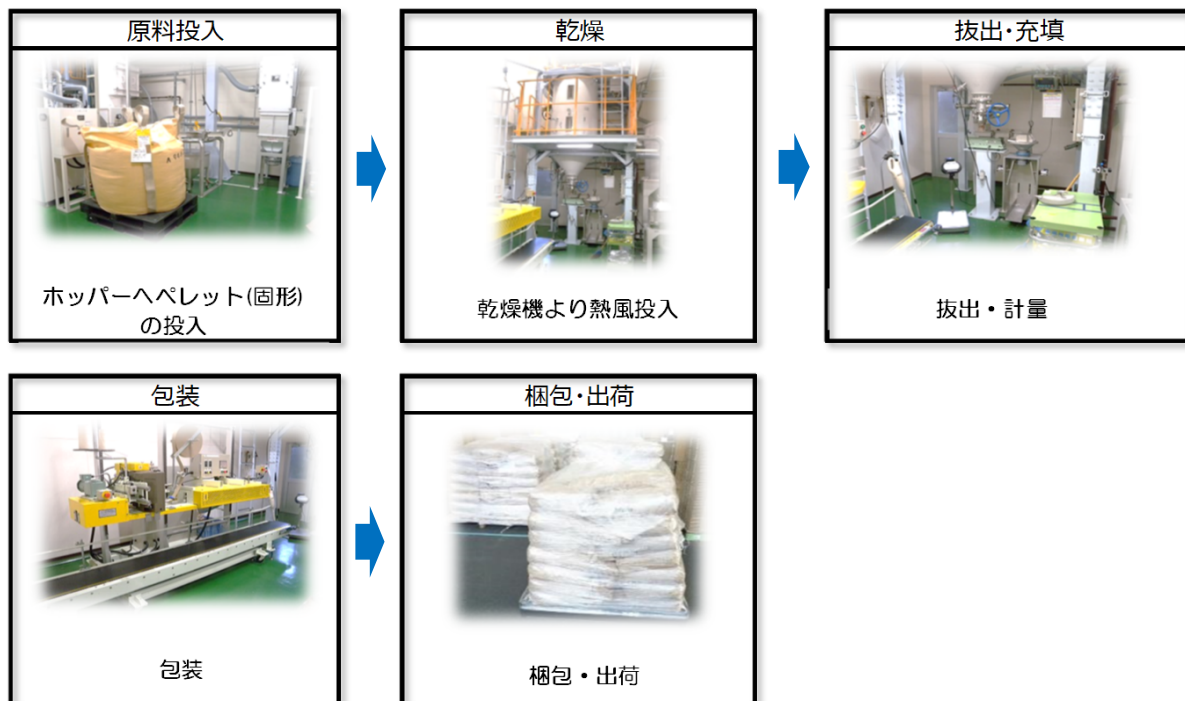
＜製造部・重合工場＞ 工程概要



<製造部・固形工場>
工程概要



<乾燥工場>
工程概要



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

主な適用法令等	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	
廃棄物処理法	一般廃棄物(紙くず等)、産業廃棄物(廃プラスチック類・廃ガラス・廃油・木製パレット、水銀使用製品、引火性廃油)	○
騒音規制法	空気圧縮機	○
振動規制法	空気圧縮機	○
フロン排出抑制法	業務用空調機・業務用冷蔵庫、空調機、冷却機器	○
PRTR法	第1種指定化学物質(462物質)、例：トルエン	○
労働安全衛生法	SDSが義務化された640物質	○
毒物及び劇物取締法	試薬類含む有毒化学品	○
消防法（危険物）	TNC危険物施設、危険物4類、合成樹脂類	○
高圧ガス保安法	高圧ガス貯蔵所	○
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機	○
その他の要求事項	顧客からの要請（マネジメントシステム取得、化学物質管理）	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。












なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

現在にいたるまで外部からの苦情・要請の発生はありません。

緊急事態対応の試行・訓練



緊急事態の想定： 火災の発生	緊急事態の想定：地震発生による避難訓練と救命訓練
■実施日：2024年9月27日	■実施日：2024年12月13日
■参加者： 24名参加	■参加者： 23名参加
■実施内容： □通報訓練 □消火訓練 □避難訓練 GA1号乾燥機より出火。SPグループにて初期消火実施。 各自衛防災団(交渉隊、警備・救護隊、機動隊)がシナリオに沿って訓練実施。	■実施内容：□避難訓練 □救命訓練 □緊急連絡訓練 緊急地震速報受信装置が震度5弱の地震を受信、しばらくして地震、停電発生、一次避難場所への避難途中で津波警報発令により最終避難場所への避難訓練。 消防による救命訓練。
■評価： 手順書の変更の必要性 □あり □なし 訓練後の参加者からの気づき点・反省点を集約し、次回に活かしている	■評価： 手順書の変更の必要性 □あり □なし 訓練後の参加者からの気づき点・反省点を集約し、次回に活かしている
■実施状況の様子     	     

代表者による全体の評価と見直し・指示

代表取締役 夏原 豊和

実施日：2025/4/1

□経営における課題とチャンス

	内部	外部
課題	<ul style="list-style-type: none">・環境対策へのニーズの増大・設備・建屋の老朽化・親会社から受注が不安定・営業力が弱い	<ul style="list-style-type: none">・石油高で原燃料費が高止まり・人材不足で他社へ人材が流れる・東南海トラフ地震による津波と浸水のリスクがある
チャンス	<ul style="list-style-type: none">・環境負荷の削減への取り組み・3本ロール分散技術を持っている・他品種・小ロット対応が可能・危険物、特化物の取り扱いが可能	<ul style="list-style-type: none">・使用溶剤の回収再生業者が増加・電池関係の材料混合の委託が増える・同業他社の廃業が増え、受託の書かいが増える

□代表者による全体の評価と見直し・指示

【2024年総括】

- ・管理職をはじめ、全従業員が理解し参加するべく、実施体制を構築し、1年間活動した。環境事務局は外部講習会に参加し、全従業員に教育を実施。月報会で進捗状況を確認した。
- ・当社の事業活動に関連した主な環境負荷項目の過去実績をデータ化し、削減するためのアクションと目標値を定めた。初年度は従業員への意識付けを図りたいと考えていたが、期待以上に具体的な行動に進んだ項目もあった。（電力削減のための行動、ガソリン使用削減、廃油処理方法、水道水の削減、等）
- ・緊急事態対応訓練は、記載した他にも活動を実施できた（年4回の防災訓練）。訓練後にはアンケートを取っており、反省点を次回に修正していく。

【次年度以降の課題】

- ・活動を始めたばかりであり、色々な課題を見つけることが出来た。当面は定めた目標とアクションを全従業員が着実に実行し、継続していく。
- ・廃油の分別、有償引取りは契約、トライアル出荷まで進んでおり、今後、種類や数量を増やしていきたい。
- ・計画生産、まとめ生産等により、効率生産、ロス低減を図る。

<指示事項>

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

これまでの環境活動の紹介

□事業所地域への貢献

拡大クリーンコスモ（塩浜地区関連会社による事業所周辺の清掃活動）への参加（2024/11）

